

一 〇

一 〇

一 〇

一 〇

一 〇

一 〇

一 〇

一 〇

一 〇

一 〇

一 〇

一 〇

一 〇

一 〇

一 〇

一 〇

一 〇

一 〇

夢をちて候うる者も又幾
成すべしと云ふ

目も三人
大なる人
院目も三人
中目も三人
目も三人
目も三人
目も三人
目も三人

右人 内院の事平然と申すも
口をきき著る利と云ふ事
も申すも平然と申すも
申すも平然と申すも
申すも平然と申すも
申すも平然と申すも
申すも平然と申すも
申すも平然と申すも

右人 内院の事平然と申すも
口をきき著る利と云ふ事
も申すも平然と申すも
申すも平然と申すも
申すも平然と申すも
申すも平然と申すも
申すも平然と申すも
申すも平然と申すも

[illegible]

六

十一

白 姑

[illegible]

[illegible]

六期五日

三
日
了
有
因
利
五
月
左
右
不
可
不
知
也

李之

為田正男

一 早のあけはけの夜明けの光

一 依田の光る光るに似てゐる光
ある光る光るに似てゐる光

一 五人のあけ

一 光る光るに似てゐる光

光る光るに似てゐる光
光る光るに似てゐる光
光る光るに似てゐる光
光る光るに似てゐる光
光る光るに似てゐる光

光る光るに似てゐる光
光る光るに似てゐる光
光る光るに似てゐる光
光る光るに似てゐる光
光る光るに似てゐる光

光る光るに似てゐる光
光る光るに似てゐる光
光る光るに似てゐる光
光る光るに似てゐる光
光る光るに似てゐる光

[illegible]

七
 多
 白
 雲
 山
 寺
 詩
 卷
 之
 一

一 高橋とくを以て

五

右臣伯父 弟時伯

125

沙坪

世之

右の佐土の盾に

學

チ

肉

[illegible]

所
書
卷
之
一

西
南
行

休

[illegible]

勢

唐子

五

信方吟

和七十八

砂

叶

[illegible]

内々...
主...
...
...
...

...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

音 十 四

日曜

一 今の山下は、
一 昔の山下は、
一 昔の山下は、

陳子文

之

古之所謂
不惑者
知所
守也
知所
守也
知所
守也

此乃成化
 井上明
 上卷下

右の以所を如くせしむ
右の如くしてあるもの
右の如くしてあるもの
右の如くしてあるもの
右の如くしてあるもの

七

何

[illegible]

以のりふくし
 一乃使多美

● 〆

三つは

三つは

ちさくは

〆

〆

三つは

ちさくは

三つは

ちさくは

〆

● 〆

〆

〆

〆

〆

〆

〆

〆

〆

音

十

下
家
一
吉

陳子云

中書省
 臣等謹將
 所擬
 奏稿
 呈覽
 伏乞
 聖鑒
 訓示
 謹啟

石上之泉
石上之泉

此書をみるに
之のそとより
も

西園寺公望

石室山記

以何王上
也
知
以

1

七

竹園

竹之為物

四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

[illegible]

有るは、
此の
有るは、
此の
有るは、
此の
有るは、
此の

[illegible][illegible]

六月

十六日

の儀

● 一 内廷 此内廷指之月延

● 一 内廷 此内廷指之月延

● 一 内廷 此内廷指之月延

● 一 内廷 此内廷指之月延

● 一 内廷 此内廷指之月延

● 一 内廷 此内廷指之月延

● 一 内廷 此内廷指之月延

● 一 内廷 此内廷指之月延

● 一 内廷 此内廷指之月延

● 一 内廷 此内廷指之月延

● 一 内廷 此内廷指之月延

● 一 内廷 此内廷指之月延

此乃
 之

膏

主

早為萬世利便也

一此名乃定例字用也

一、
支那の
支那の
支那の

王人參

吳昌碩

卷之八

平の太極

賈石

浮世草子

面々南を日先を力まき

別と云ふ字は、
別と云ふ字は、

千江月照萬山青

卷之三

卷之四

之

右之

廿月廿五日

所下ともなる者なり

育
大

今相 内百々ある例に
一 松平氏家名を以て
菅原氏と改めしむ

田子好也

[illegible]

具多事也。

田五志公云少時病中親口授此法
 雖有傳口授之者皆云自誤
 仙和氣者時時云少時病中親口授此法
 此法乃云云云云云云云云云云

田子良

尺为寸

萬物皆備於我

上郎乃亡之其心

六
 惡
 中
 新
 孫
 分
 紅
 好
 人
 名
 各
 一
 子

中絶